

分野別フォローアップでの主な委員意見 [分野別]

(人づくり)

領 域	主 な 意 見
教 育	<p>【幼児教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼保一体化については、幼稚園の機能と保育園の機能を併せ持つ「認定こども園」を推進すればよいのではないか。また、広島県版の幼児教育一本化というのを打ち出していくこともよいと思う。 <p>【地域への愛着と誇りを持った人材の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園・幼稚園から生涯学習にわたりそれぞれの市町のことをカリキュラムとして学ぶ「ふるさと学」が、様々なところで取り組まれているが、自分の街に誇りを持つ人の数が増え、大学などで県外に出ても戻ってこようという意識が働きやすくなる傾向があると思う。 ○ 山口県では、どこかに今の日本を作ったのは自分たちだという意識を持ち、自分たちが何かをやるときには一度外へ出てチャレンジをしてこようという気持ち、雰囲気がある。しかし、広島では終戦後の復興などが出来事として大きすぎるのか、それ以前の文化的な個性が見えない。 ○ 多くの城下町では江戸時代に熟成された文化がありそれが街の個性を作っているが、広島にはその点でやや物足りなさを感じる。 しかし、広島県内には古代、中世、江戸時代の各時代に豊かな歴史があり遺跡もある。子どもたちに、広島の奥の深さを感じ、郷土への愛着を持って育ててもらおう、郷土の歴史を教えることが必要ではないか。 <p>【グローバル人材の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グローバル人材として、多様な価値観を持つ方々と理解しあえるためには、その違いを知るため、まず我を知ることが重要。 ○ グローバルな人材というのは、一つは多様性を共有する力があり、相手を尊重することができる、自分と異なるものを排除しないということではないかと思う。また、それとは別に、ビジネスの現場でグローバルに活躍できるというものがあり、異なる能力が必要とされているものだと思う。 <p>【県内大学の地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根付いて地域のために地域を支える人材の育成は重要。地元の県立大学等がそういった人材を育成することが必要ではないか。 ○ 地域、企業に学生を招き、半分プロのような形で学生を見てもらう。それにより学生自身も大学という場でしっかり学ばないといけないということを意識させ、自分たちの学びが、どこかで地域社会との接点があると感じさせることで意義を感じるといった良い循環を生み出すことが必要。

領 域	主 な 意 見
多様な主体の社会参画	<p>【出産・子育て・女性の活躍促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体策として、キャリア形成・養成を同時にしておくために女性の管理職登用の数値目標を設定することや、ワークライフバランスを促進するための時間外労働ゼロ、保育所の待機児童ゼロ、保育所並みの利用時間の学童保育などが解消されない限り、世の中の親の悩みは解消されないと思う。 ○ 妊娠、出産、子育てしながら女性が働き続けられる企業・家庭・社会になっておらず、性別役割分担意識が非常に根強く残っている現状がある。これらを変えるためには、アフーマティブアクションをするぐらい一歩踏み込んで見直すべき。(棚多委員) ○ 男女が共に働くことを考える機会は、社会に出る前の教育の段階で行うことも必要ではないか。 ○ 就職後、数年で辞めることを普通と捉える価値観を変えることも重要。 ○ 高齢化に伴い、介護への対応が社会問題化することは明らか。働き続けられる社会とは、女性だけの問題ではなく、男女共通の問題として捉える必要がある。 ○ 男女・年齢を問わず、働く環境や、それをサポートする保育・子育て環境を作っていくことを強調できないか。 ○ 子育てを手助けしたいと思う子育て経験者を地域で活用できないか。 ○ 高齢者が子育てにも参画し、地域全体で子育てする関係性が築ける仕組みがあれば、子どもを預けやすくなる。 ○ 例えば、婚外子を受け入れる制度や、女性が一人でも生きていきやすい制度が、国に先んじて広島県にあれば、女性が集まり、婚姻も増えるのではないか。 ○ 家庭に入りたい人や創業を志す人など、価値観や働き方の多様性は受け入れるべき。 <p>【多様な主体の社会参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県が多様性を受け入れていること（障害者雇用率の高さ、企業と連携した活発な外国人雇用など）を強みとして活かすなど、多様な働く場、社会参画の視点を広げることができないか。
人が集まり定着する環境整備	<p>【定住促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年に、国際人育成校として、県立の中高一貫校を開校するという新聞報道があったが、広島県教育の特色として展開することで、県外から広島に転勤する際に、家族で広島に来てくれるようになるのではないか。 ○ 地元に戻りたいけど帰れないという声を聞く。求人の量も少なく、また、質もニーズに合っていないのではないか。もっと、求人が出回るようなマッチング機能が必要ではないか。 ○ ユニークな、就職したい企業を集積するという取組も考えられるのではないか。少しの前のシリコンバレーのような、例えば、規模は小さいが徳島県の神山町に、IT企業を集積させている好事例がある。若者達が就職したいと思える企業とか、優秀な人材が起業しやすい環境をつくるといった視点があってもよいと思う。

領 域	主 な 意 見
	<p>【若者の転出超過対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会に出ていく学生が、将来、結婚し、子どもを産み育てるという生活スタイルを考えた場合、東京がよいのか、広島のような地方都市の選択肢があるのではないかと考える。ある程度の都市機能を有し、プロスポーツもあり、高いレベルの仕事ができ、家もあり、車で通勤も出来るなどトータルで見てもらうようPRすべきだと思う。 ○ 広島に来て、住んでいただくためには、バランスのとれた生活も、自己実現もできるというPRをしてはどうか。 ○ 広島県のホームページでの、オンリーワン・ナンバーワン企業の紹介の仕方が地味であり、学生もほとんど知らない。もっと周知を図る必要がある。 <p>【高度で多彩な人材の育成・確保（グローバル人材、海外人材など）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県内産業に関して、これからは新しい分野の働き方が益々生まれてくる。そうした時に、広島という地域がその可能性があるということが見える地域にならないといけない。現在は、従来型の発展形の産業しかない状況であり、新しいものを生み出せることが必要である。現在、県が取り組んでいる「ひろしま発人材集積促進プロジェクト」の規模では小さく、色々な分野で取り組み、広げていく必要がある。 ○ 世界的に見ても、広島はオリジナルを持っている。それを、教育・研究の分野に活かしていければよいと思う。例えば、国際平和に興味がある方は多くいるため、国際平和のことを考えるなら広島で勉強した方がよい、とか広島の持つリソースを生かし、ある特定の分野を研究するなら広島というメッカになり、カリキュラムがあると優秀な人材やグローバルに課題解決に取り組む人々の吸引になると考える。 ○ 他の地域も同様のことをねらっているため、差別化を図るため、広島にしかないコンセプトを核に、ターゲットにリソースを集中させることが重要である。 ○ 起業に対する財政支援等は、他県でも取り組んでいる。例えば、NGOに特化し、広島県はファンドレイジングしやすい環境が整っているなど、他とは違う切り口で戦っていくことなどが考えられる。 ○ 文化・芸術に関して、金沢市の美術館では、子どもが自分で絵などを描くスペースがあり、自ら体験し、また資料や作品を自由に見ることができ、創作的な活動を自らできる環境が整っている。こうしたことは、色々な場面で自らが何かを創り出そうということにつながる。何かを教えるのではなくて、自分で生み出せるような設備や雰囲気づくりがあれば、世界的に社会が変わっていく中で、新しい働き方も生み出せるのではないかと考える。 ○ 広島には多くの留学生や海外からの観光客が来られている。その方々と大学生を含めた地域の方が交流する場があればよいと思う。海外から来られる方が、広島に滞在していく中で刺激を受ける場がうまく創ればよいと思う。 <p>【広島県教育の魅力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学間の交流により、互いに切磋琢磨し魅力を高める場がもっとないと他の地域に負けると思う。関西の大学では、生き残りを賭けて競争し合う場があり、ある部分では手をつなぎながらも、互いが競い合うことで、全体的な力を高めている。 ○ 広島の県立高校は、国公立大学進学至上主義である。全国の国公立大学にどれだけ入学したかが指標になっている。大学の多様性を認めていない。

(新たな経済成長)

領 域	主 な 意 見
<p>新たな産業・基幹産業，産業人材・就労</p>	<p>【イノベーションの促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イノベーション自体が目的になっている書きぶりが気になる。それによって広島県が何を指して、県民の生活をどうするのか。雇用を創出して就業率を上げることが目的ではなく、産業が活性化することによって広島県がどういう地域として世界の中でポジションを得るかということだと思う。誰が見ても広島はこういうところだと分かるものが必要だと思いつつ、来ていないから難しいのだと思うが、そこを真面目に議論する必要がある。 ○ イギリスの州レベルの地方政府では、経済産業部局が大学や自治体とタッグを組んで、高度な産業の育成を目指して、大学はレベル別にそれぞれ何をやるのか、地域は何をやるのかを決めて取り組んでいた。市町レベルでは無理かもしれないが、県レベルではサステナビリティの実現を目指してそういったことに取り組むべきである。そのためにどのような産業を呼んでこないといけないかなど、ある程度のストーリーを持って取り組む必要がある。 ○ 広島発の大企業もあることから見れば、広島にはものづくり関連の企業が生まれる素地はあり、モデルもある。広島のアイデンティティーの1つなので、そういうことを子供たちに伝えたり、こういう地域なのでもっと頑張ろうということを積極的に打ち出していくべきである。 ○ 新たな産業に向けた取組は、これまでやっていることを先鋭化するものばかりであり、それだけでは新しいものが生まれない。新しいものを生み出すにはこれまでにないものを入れて、揺らしながら、また新しいものを入れる必要がある。基本はものづくりだとしても、別のものの見方を入れられないといけない。マツダはデザインで人々の感性をどう表現するかを突き詰めているが、それを他の分野にも応用して、広島は人の気持ちを形にしてくれるところがあるということをやっても面白いと思う。 ○ ものづくりは重要だが、サービス業も含めた仕組みづくりが重要である。イノベーションは、ものづくりに限ったものではなく、小売業も住宅も介護も医療もすべてそうなので、県立大学にMBAもできるし、地域の大学としても連携して、人づくり、仕組みづくりによって新しいイノベーションを生み出すことを謳ってもらえればと思う。 ○ サービス業の中でも対事業所サービス業、ソフトウェアやコンサルティングや構造計算、デザインなど、これらは広島が中四国で一番である。こういった新しいサービス業についてもぜひ打ち出しをしてもらいたい。 <p>【県内大学の地域貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域貢献が大学のミッションとして、どの程度意識されているかは疑問である。文部科学省から国立大学の国際的なランキングを上げるように言われている中、海外の教員を増やしたり、留学生を増やしたり、論文を出すことが重視されている。地域貢献は評価項目にないため、プライオリティが下がる傾向にある。バランスに配慮するような工夫・仕組みが望まれる。

領 域	主 な 意 見
	<p>○ 県における大学の視野を広げてほしい。広大，県大，市立大だけを見るのではなく，地元の私立大学は地域があって始まった大学であり，地元の学生が多く，地域のつながりを重視している。そういうところも含めて考えてもらいたい。</p> <p>【地域に根差した産業の人材確保】</p> <p>○ グローバル人材は重要だが，すべての企業がグローバル人材を必要としているわけではない。介護や医療，住宅など，ほとんどは地域に根差した産業である。そこではいかに安定して人材を確保し，人材の質を高め，社員がプライドを持ってやっけていけるか，そのための仕組みづくりも重要である。</p>
農林水産業	<p>【自立可能な農林水産業の実現】</p> <p>○ 県内には伸ばしていける品目はいろいろあると思うし，そういう形で仕事があれば，都市部からの中山間地域への人材の定着も進むと思う。そういう形で自立した産業として成り立つ農業の仕組みを作っていけないといけないと思う。</p> <p>○ 個々の経営体は小さくても，共有できる部分を効率化していくということは重要なメリットである。ただ，施設整備など様々な初期投資が必要ということなので，商工部門の中小企業支援制度などが活用できると良いと思う。</p> <p>○ 脱サラして新たに農業を始める場合などに，農地が分散してしまい，大規模にまとまった農地を確保できないという悩みを聞いている。一方で，荒れた耕作放棄地などもあり，農地が流動化する仕組みが必要ではないかと思う。</p> <p>○ 農業を農林水産業者だけから見のではなく，外の視点から農林水産業を活性化される取組も必要だと思う。一般の人は農林水産業にほとんど触れる機会がないと思うが，そうした中では，農林水産業をどうしていこうという視点は生まれてこない。そこを広げていくことにより，県としての施策に厚みもでてくるのではないか。</p> <p>○ 学生に対して，農林水産業で働ける，食べていけるといった情報の提供は，若い人の県外への流出も防止にもつながるのではないか。</p> <p>○ 林業については生産者や販売者の視点が強く，消費者にとっての県産材を使うメリットという視点が不足していると感じる。また，木材として使うことを中心に考えるだけでなく，燃料としての用途や水源の涵養といった他の用途や機能など，木材という視点から少し離れて広島県の森を考えることも必要だと思う。</p> <p>○ 就労の場として林業を生かすという視点で考えれば，福祉的な部分で，もう少し変わった形で成長していけるのではないか。</p> <p>○ 将来を睨み，「長く住むならこの木」というようなイメージ戦略も必要ではないか。</p>

領 域	主 な 意 見
観 光	<p>【観光の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インドネシアやフィリピン、ベトナムのビザの免除などの規制緩和が行われている。外国人を広島に呼び込むために、平和貢献の分野とも重複するが、国際会議の誘致を検討してはどうか。MICEのための施設を作って誘致するのではなく、歴史的建造物、例えば厳島神社や護国神社、広島城を使って国際会議などを誘致してはどうか。ディオールがルーブル美術館を使ってパリコレをやったように、広島発のコレクションでもよいと思う。 ○ 「おいしい！広島県」やがん対策のデーモンはどうなるのかと思っていたが、他県の人からは、「広島県は元気があって良い」と言われる。好印象のうちに次の施策を打って、外国人も観光しやすい観光地づくり、英語での案内など、引き続き目玉となるものを打ち出してもらいたい。 ○ 呉市豊町の御手洗は重要伝統的建造物群保存地区に指定されて、自分たちがガイドをやるようになってからは、住民たちが外の人に自分たちの町のことを説明したいという思いになっている。県民にとって観光の振興とは、世界遺産だから良いということなのか、お金を落としてもらえればよいのか、もっと違うことがあると思う。観光・おもてなしというよりは、広島県としてどういうポリシーで誰に対して、どのような形で来てもらい、それが県民の幸せや誇りにつながる、それが来た人にとって価値を生むといったことが、後期の計画の中にエッセンスだけでも盛り込めると良いと思う。 ○ 中山間地域と観光がいつも離れているように思う。中山間地域について、地元の人が、わが町、わが村を見直して、良さを再認識するという視点もあって良いと思う。また、中山間地域をルートとして通るだけでなく、田舎の暮らしに触れることが重要で、地域の人や観光客同士が交わるようなイベントがあってもよいと思う。三次や庄原には観光農園で良いところもある。修学旅行やツアーに組み込むと、将来住みたいと思う人も出るかもしれない。 ○ 観光については、住んで魅力があり、外から来た人にも魅力があるということ。2点目は、来てもらって金を落としてもらい、雇用の確保につながることから、雇用創出、輸出産業として観光は重要であること。また、3点目は、来てもらって、国際理解を深めながら、国際貢献につなげるという大きな目標も掲げることができるだろうということ。そして、産業連関の視点が弱いので、地産地消だけでなく、商売、工業、宿泊なども含めて産業連関の仕組みも併せて検討する必要があると思う。 ○ どんな人に来てほしいのかが大事。どういう人にどういう町だと思ってもらいたいのか。普通、ビジネスなら弱いところは切り捨てる。強いところを伸ばして、その波及で弱いところも持ち上がってくれば良いと考える。県と経営は異なると思うが、どんな人に来てほしいかを定義する必要がある。 ○ イタリアの田舎の人でも、みんな広島という地名を知っている。うまく呼び込む仕組みが必要だと思う。また、平和で人が来るならそこでビジネスを作らないといけない。

領 域	主 な 意 見
	<p>広島に行くとは何か平和のヒントが得られるということになれば多くの人が来ると思うが、そこまでのコンテンツがあるかと言えばスポットでしかなく、周りと連動していない。空港には平和都市の香りはない。そういうことが生み出せていないことが観光の弱さだと思う。一度見たらそれで済む。スフィンクスを見てもその後の発展がないのと同じであり、そうならないようにしていく必要がある。</p>
<p>交流・連携基盤</p>	<p>【港湾施設の機能強化】</p> <p>○ 競合する他県の港湾もそれぞれが強化を図っている中で、同じ土俵で戦っていくのは難しいと思う。県として、投下する費用と得られる効果考えた時にどうなのか、企業にしてみると、例えば、神戸港に運んで物流コストはかかっても、それ以上に、関税とか検疫の手続きが24時間、しかも簡素ということであれば、利用する可能性もある。それを無理に混ぜ返して下げるまでのメリットがあるのか分からない。ターゲットをはっきりさせる必要があると思う。</p> <p>【ゲートウェイ機能の強化】</p> <p>○ 企業誘致や国際会議の誘致、グローバルということを掲げていながら、空港までのアクセスに対するイメージが悪く、それが心のバリアになっているのではないかと思う。空港アクセスの改善が難しくても、空港に着いたときに、広島に着いたら驚くようなことがあるとか、そういうことで何か工夫しないと、国際会議の誘致とか難しいのではないかと思う。</p> <p>【県内大学の地域貢献】</p> <p>○ 広島大学が日本の中の10校のスーパーグローバル大学に採択されて、外国人留学生が3倍増えるといった状況で、その学生の就労先や就職先を考えた時に、県内でこういう仕事ができるとかいうことをマネジメントの中でリンクさせて見せることによって、交流もできて、産業もできて、あるいは外国の方が広島に定住するということも考えられるかもしれないので、広島大学に限らず、県内大学と広島県との情報交換など、連携が必要である。</p>

(安心な暮らしづくり)

領 域	主 な 意 見
医 療	<p>【医療の提供体制と適正な受診行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県は特定健診受診率がとても低いですが、医療へのアクセスは他県と比較して非常に良い。医療へのアクセスが良く、医療を受けやすい状態にあるという指標を作り、上手に示すことができれば、県民の理解も得て、他県からの呼び戻しを狙うこともできる。逆に医療費が高い面もあるが、それを悪く捉えるのではなく、多面的に捉え、病状が悪くなる前に未然に防ぐことができているというような表現を出すと、アピールの柱にもなる。 ○ 救急では医師が疲弊している状況もあるため、県民が機能を選んで、どんな時に救急を利用したらよいかを考えるべき。大病院やかかりつけ医へのかかり方を取捨選択して、全体のバランスやわが町の医療の在り方を考えた受療の仕方は、重要なポイントになる。広島は医療のアクセスは良いと思うが、正しい病院のかかり方は県民が考える必要がある。そのためには、今の状況やデータを提供していく必要がある。 <p>【出産・子育て・女性の活躍促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性医師の就業状況はM字カーブではなく「への字」になる。女性医師が継続就業できる環境づくりをしていかなければならない。短時間正規雇用なども考えながら、上手な女性医師が働き続けやすい環境が望ましい。女性医師が働き続けるためには、実家が近いなどは動機付けにもなるので、県外から呼び戻すに当たって重要なポイントになり得る。 <p>【持続可能な医療・福祉・介護体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の人口動態や社会が変化する中で、「いつでも、どこでも、誰でも」を実現するために必要なコストを睨んでおかないといけない。中山間地域の医療も必要だが、更に一歩進んで限界集落となった時は、医療だけでなく、あらゆる公的サービスの維持が困難になるという共通の問題がある。限界集落の問題は、長期的には何らかの形で移り住んでもらう方が、コストを考えると公的サービスの提供側も住む人も良いのではないかという考え方もある。
健 康	<p>【持続可能な医療・福祉・介護体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療保険制度等により、受益と負担が不一致なため、見えにくい面があり、安易に病院にかかってしまいがちという側面もある。今後国保財政等も厳しくなってくるので、それぞれの市町が明らかにするような仕組みを作り、県はバックアップするような仕組みが重要である。 ○ 何年後かには需要が飽和するが、まだ待機高齢者がいる。施設ケアをするには公費、不足部分の税金投入等がかかることになる。国では、施設ケアを抑えるという方向にするため、施設ケアは高額であることと、最後は家で看取りたいというアンケート結果を効果的に活用している。

領 域	主 な 意 見
	<p>【県民総ぐるみの健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症・疾病管理センターは広島県が全国初。広島県がしっかり対策を行っているということや必要な情報を得る方法などを県民に広報する必要がある。システムはあっても県民に情報提供できていないことが問題。 ○ 医療・介護・保健総合分析システムなどの先進的な良い取組をしていることを、県民へもっとアピールすべきである。また、分析システムを使って、市町や125の生活圏域ごとにデータを公表して競うなど、トップランナーにうまく前面に立ってもらって、みんなが競争しながら健康を目指すという、なんらかの運動が必要。 ○ 健康は、仲間と一緒に取り組むことが望ましく、見える形の県民総ぐるみで推進していくことが重要。同時に仲間づくりにもなり、様々な会話を交わし合うことが、見守りや防災など、みんなで町を良くすることにもつながる。こういった動きが県内に広まれば良い。健康に向けた地域や市町での特徴的な取組を、広島県民全体の意識の共通化につなげていく必要がある。
福祉・介護	<p>【福祉施設の有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉施設の用途は、保育所や高齢者施設や障害者施設などを大きなくくりで、柔軟に運用したほうが、限定するより人口動態の変化に対応できるのではないかと。 ○ 90歳を過ぎた人を自宅で介護するとは、子どもが既に70歳を超えている場合もあり、どんな人にとっても相当大変なこと。ある程度の年齢を超えたらむしろ、在宅ではなく特別養護老人ホームなどの施設に入る方が本人のためでもあり、家族のためでもあると思われる。 <p>【障害者の自立支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者支援のサービスや見守りの網の目から外れてしまうような方が、ご両親も高齢になってくると、社会から孤立してしまい、いろいろな社会問題に繋がっている側面もある。障害については、逆に軽度の方をどうするかという問題が今後ますます大きくなっていく。障害者雇用の取組を進めて雇用率が高まっている岡山県の総社市の例も参考に、自立について検討する必要がある。 ○ 特別支援学校の需要が増えていることは、とても良いこと。生徒それぞれに合った教育があり、しかも就職につながる可能性が高いという認識ができてきたからであり、評価されているから子どもを預ける人が多いのであって、むしろ大いに強調すべきことだと思う。子育てに関しても、生まれた子どもに障害があった場合のケアができていくことが重要である。
子育て	<p>【出産・子育て・女性の活躍促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今の働き方は、仕事だけで一杯で、結婚して子供も産むということにはならないという悪循環に陥っているため、子どもを産んでも働き続けやすく、働き甲斐のある仕事に就くことができ、キャリア形成も登用もできる道筋をつくっていく必要がある。

領 域	主 な 意 見
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働き方の見直しにより働く時間ではなく、生産性のある働き方への転換をしないといけない、つまりワークライフバランスであるが、バランスをとるだけでなくライフの充実をワークに好循環させていくことが必要である。 ○ 大企業では意図的に数値目標を設定して、女性の比率を高めようとしているところが多い。一つの考え方だと思う。 ○ 子育てや女性の働きに対して積極的に取り組んでいる企業について、その取組と本業の業績との相関で業績がプラスになる傾向があればPRできるのではないかと。 ○ 女性の雇用やイクメンのフロントランナー企業を幾つか検証し、それを目指していくことを応援することは県として可能だと思う。 ○ 中山間では子どもの減少に伴い、保育所の統合や民営化が進み、遠い保育所への送り迎えに時間がかかるなど不便な状況がある。都市部に引っ越す若い家庭もあるため、県北の保育についても検討が必要だと思う。 ○ 子育てに関しては、大学でも難しい部分があると感じている。既存の教育の分野にはならないようなところの課題もある。大学の教員は専門分野が中心のため、その部分がかかり抜け落ちている。自立できるような教育を小さい頃からしていくことが大切だと思う。
環 境	<p>【再生可能エネルギー社会の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一番大きい情勢の変化は、マネー資本主義から里山資本主義というパラダイムの転換である。庄原市のバイオマス発電事業の頓挫により、県内、停滞したムードがあるが、農業や産業、中山間地域の山の保全など広範囲に関わってくるテーマである。 ○ 10年後の広島県を考えていく中で、どういうエネルギーを使って、どういう生活を送るかということを議論することは避けられないと思う。 ○ エネルギーのあり方について、各市町が計画等で示せばよいが、そこは県が「ひろしま未来チャレンジビジョン」といった計画の中でうたって、実体化していくことは、本当に大きなチャレンジである。 ○ 再生可能エネルギーにどんどん変わっていくという流れはあると思うが、具体的な行動を選ぶのが難しいと思う。そういう意味では、トライ・アンド・エラーとして、色々なことにチャレンジしていく期間を一旦取って、その先で、県の具体的な方針を決めていくという流れがあるのかと思う。 <p>【地域環境の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PM2.5や水質環境に対してしっかり取り組むということは「安全・安心」で分かりやすい。 ○ 環境の中には、自然景観、都市景観というものもあり、地域によっては非常に力を入れている。こういった点も環境の中な重要なファクターと言われている。

領 域	主 な 意 見
防災・防疫	<p>【災害に強いまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このまま無秩序に宅地開発を行うことは、もう止めないといけないと感じている。人口も減っていく中で、街が大きくなっていくことは、災害でのマイナス面でも大きくなると思う。今まで人が住んでいなかった所は危ないかも知れないから、あまり住まないように、というような、緩やかな方向付けのようなものは、あっても良いと思う。 ○ 徐々により安全な所へ移り住むという方法を更に取りたくないといけない。今住んでいるからどんどん砂防ダムを作るというのも一つだが、防災ダムにコストをかけるのか、より安全な所に移り住んでもらうのかというのは、そこに住んでいる人のことも含めて議論した上で考えないといけない。危機管理的な側面と、非常に時間をかけてゆっくり災害に強いまちづくりにしていくというようなまちづくり、双方の視点がある。 ○ 色々な権利関係の中で膨れ上がってしまった市街地をどのように閉じていくかという話は、ここ何年間で結論が出るとは思えない、非常に難しいところだ。 ○ 集落等を閉じていくことを支援するというのは考えられる。 <p>【コンパクトシティーの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大型の空き店舗など古い建物が耐震基準を満たさず、利活用できていない状況がある。もちろん安全は大事であるが、例えば、もう少し規制を緩和することができれば、中心市街地活性化の推進が図られるのではないか。 ○ 都市郊外の住宅団地の維持については、商業施設等の生活利便施設等が整ったある程度強い地域と、そうでない地域を分けて考えていく必要があり、それら地域間の距離の問題も含めて、長期的に対応していくことが考えられる。 <p>【危機管理体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「県、市町の災害対処能力の向上」、これはまさに危機管理、これは是非とも必要である。実際の危機管理にあたるのは市町であることから、情報をいち早く得て、迅速に判断、行動できるよう基盤がきちんとできていないといけないが、せっかくの情報を活用できていない側面がある。また、気象台の提供データのバージョンアップの更新が早く、市町が遅れをとっており、また、市町での人材確保は難しいことから、県がソフトウェアの基盤整備まで踏み込んで支援するとともに、共通のもので定期的な訓練を行うことが必要であると考える。
消費生活、治安	<p>【高齢者の詐欺被害の防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者を狙った巧妙な手口の特種詐欺に関して、その手口等の情報をきちんと高齢者に伝えるような方法を取るなど、阻止する手立てが必要だと思う。 <p>【性犯罪被害等の防止と被害者支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性に対する性犯罪が増えているが、被害者本人はそのことをなかなか言えない。また、起こったときはきちんとケアをして、それに対しては、心のケアを含め、適切な対応すべきであり、性犯罪を許さないということで、ワンストップのようなセンターがあれば良いと思う。

領 域	主 な 意 見
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学生間での性的なトラブルは発生している。インターネット等で、色々な情報を刷り込みされているように見え、インターネットからの情報入手を抑えることができない以上は、こうしたことを判断できるように、割と早い段階から教育するしか方法はない。根本からやらないと治安というのは難しい。 ○ 被害に遭った時の対策を迅速に行うようなことが必要かと思う。それが警察だけなのか、或いは地域との連携をもって解決するのか。早く情報を上げることも必要ではないか。 ○ 女性の問題だけでなく、麻薬の問題等も含まれる。 ○ 最近、乗り物の中で、犯罪にあった人はすぐに知らせてくださいといったアナウンスとかステッカーを沢山見かけるが、それ自体が予防策になる。 ○ 広島県全体として安心して暮らすためのルールづくりも含めた、みんなの思いというか、そういうものが必要ではないか。 ○ ワンストップの窓口があるということだけで、県民の意識も変わってくる。

(豊かな地域づくり)

領 域	主 な 意 見
地域資源活用・地域情報化	<p>【戦略的な地域の魅力づくり】</p> <p>○ ある都市では、様々な研究所が行っている都市ランキングで、成績が良くない研究所の結果は語らず、成績の良い研究所の結果を前面に出してアピールしている。また、そのランキングがうまく上がるように狙った取組が行われている。それは一つの切り口で、ある部分でプラス面があると思う。</p>
都市地域	<p>【空き家対策】</p> <p>○ 住み替えの促進を図るため、広島大学の協力を得ながら、定期的に相談会を実施するなどのキャンペーンに取り組んでも、空き家を手放そうという意志がないため、そもそも相談に来る方が少ない。こうした意思に対する働きかけがあると良いと思う。</p> <p>【コンパクトシティーの推進】</p> <p>○ 低・未利用地を含め、県の役割を明確にする必要がある。「コンパクトで利便性の高いまちづくり」を進める上で、どういう手段を取るのか、例えば、機能、ネットワーク、土地利用という点がもう少し詳しく書いてあれば、市町も動きやすくなると思う。</p> <p>【中枢拠点性機能等の方向性】</p> <p>○ 都市計画区域マスタープランの上位計画に位置する当該計画の中で、各地域の取組を応援するということが、県土全体でどう機能のバランスを取っていくのか、といったことを書く必要があるのではないかと。また、中枢拠点性機能の強化の方向性、県土全体における各都市の位置付けとどう各都市をつないでいくのか、そして、各市にはこう考えてもらいたい、といったメッセージを伝えるものになれば、分かりやすくなると思う。</p> <p>【地域特性を生かした魅力あるまちづくり】</p> <p>○ 若い時は都会に出るかもしれないが、年をとったら、経済的には、豊かではないかもしれないけども、安心、心の豊かさがある例えば吉和に帰って暮らした方が良いと思って帰ることができる。このように、魅力ある地域づくりの中に、個々の市町が地域の特性を発揮して、バランスよくコーディネートされていく、という視点があることが望まれる。</p>

領 域	主 な 意 見
中山間地 域	<p>【人口減少対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都市地域と中山間地域の共通の課題である人口減少への対応は、いろんな役割分担があると思う。人口維持あるいは他の場所から移住してもらうことに取り組むのであれば、どのような都市、街の位置付けにするのかということを示していかないといけないと思う。地域ごとに状況が異なるので、県が全体像を示し、この地域からこういう人たちが出ないようにする、あるいは、この地域に移住してもらうには、こういったことに頑張ってもらいたいといった役割分担まで言及して、それぞれが役割を果たしながら県全体の人口を維持・増加させる方向に持っていく必要があると思う。 ○ 人口減少の流れを止めようとする努力も必要であるが、人口減少が避けられないのであれば、減った時に痛みが最小限になるような、減ることが怖くないと思えるような、スマートシュリンクをイメージしたシナリオも検討しておいたほうがよいと思う。 ○ 全部で何万人に減るからといって、地域が右往左往するよりは、どこの世帯の息子が一人残れば、この地域は守れるのかといったことを冷静に考える人がいないと困ると思う。
平和貢献	<p>【国際平和拠点の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際平和拠点を目指すなら、あらゆる資料、映像も含めて、いろんなものが手に入る状況をつくる必要がある。また、外国から来た人が平和を学ぼうとしたときに、若いだけでなく、いろんな世代の人が学ぶ場があると、滞在型になる。その町が持っている資産を活用した観光ともいえる。そういうことができると、宿泊客も増えるし、地元の人との交流もあって、市民の国際的な感覚もあがるように思うので、良いコンテンツとしてしっかり広げていければと思う。 ○ イギリスの都市では、留学生の経済波及効果の調査・研究をやっていて、例えば授業料300万、500万を半額にしたところで、4年間あるいは、6年、10年という間にお金を落としてくれて雇用を生んでくれるというようなことを計算している。やはり単に学びに来る、観光に来るというだけではなく、なるべく長く滞在してもらって、お金を落としてもらおうと考えるのも、浅ましいことではなくて、むしろお互いのためになるのではないか。 ○ イギリスは各分野でどの大学が良いかというのを探すサイトがある。そこからどの大学があってどういう人がいるかを探すが、そういうのが広島で、こういう目的で平和を学ぶときには、ここが良いというのがあると来やすいのではないか。 ○ 市町ごとにいろいろな取組が行われているが、計画にはもう少し広い視点で県としてのポリシーをきちんと書けば、あまり細々したことが書かれていなくても、県としての役割がクリアに伝わるのではないか。